

## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出（記載金額は消費税及び地方消費税額を含む。）

収益的収支に係る予算の執行状況は、次のとおりである。

#### ア 収益的収入の予算執行状況

収入 (単位:千円・%)

区分	予算現額	決算額	予算現額に対する決算額の増減	執行率
<b>水道事業収益</b>	<b>4,645,345</b>	<b>4,659,764</b>	<b>14,419</b>	<b>100.3</b>
営業収益	4,610,924	4,611,975	1,051	100.0
営業外収益	13,068	18,555	5,487	142.0
特別利益	21,353	29,234	7,881	136.9

(備考) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 219,457 千円を含む。

営業収益の内訳は、給水収益（水道料金）45 億 667 万円及びその他営業収益 1 億 530 万 5 千円となっている。その他営業収益の主な内容は、下水道使用料徴収受託料 8,079 万 2 千円や給水装置工事手数料 1,306 万 5 千円などである。

#### イ 収益的支出の予算執行状況

支出 (単位:千円・%)

区分	予算現額	決算額	不用額	執行率
<b>水道事業費用</b>	<b>4,354,296</b>	<b>3,963,246</b>	<b>391,050</b>	<b>91.0</b>
営業費用	4,072,663	3,729,795	342,868	91.6
営業外費用	242,280	225,475	16,805	93.1
特別損失	19,353	7,976	11,377	41.2
予備費	20,000	0	20,000	0

(備考) 決算額には、仮払消費税及び地方消費税 87,036 千円並びに消費税及び地方消費税納付額 61,464 千円を含む。

営業費用は、原水及び浄水費 12 億 9,681 万 7 千円（うち受水費<sup>(注)</sup> 8 億 3,438 万 4 千円を含む。）や、減価償却費 11 億 5,581 万 3 千円が執行額の大きなものとなっている。不用額の主な要因は、給与減額措置及び職員数が減少したことや、老朽管（鉛管）の更新が計画数を下回ったことなどによるものである。

営業外費用は、企業債に係る支払利息 1 億 6,370 万 8 千円、特別損失は、水道料金等に係る過年度損益修正損 752 万 5 千円がそれぞれ主なものである。

(注) 受水費： 本年度分の福岡県南広域水道企業団受水料金（65 円×12,592,500 m<sup>3</sup>+9 円×6,780,468 m<sup>3</sup>=879,537 千円）から、平成 25 年度一般会計繰出還元金 45,418 千円（企業団設立に伴う一般会計の出資金の一部が「一般会計繰出金の還元方法に関する規則」に基づき還元されるもの）を差し引いたものに、大木町及び筑後市受水料金 265 千円を加えたものである。

なお、過年度損益修正損のうち水道料金に係るものについては、過年度分の調定額を減額したものと、2年の消滅時効の期間が到来したことにより不納欠損処理を行ったものがあり、そのうち平成25年度に不納欠損処理を行ったものは、518万5千円である。これを年度別で見ると、21年度の未収金3万1千円のうち1万7千円、22年度の未収金88万9千円のうち82万円、23年度の未収金555万6千円のうち434万8千円となっており、理由別の件数及び金額については、次表のとおりである。

#### 不納欠損処理額の理由別内訳

(単位:件・千円)

区 分		件 数	金 額
市 外 転 出		238	614
行 方 不 明		301	990
自己破産(倒産)		69	2,062
死 亡		69	137
その他上記の いずれにも該 当しないもの	滞納のため供給停止したもの	439	1,184
	中止届により利用中止処理 を行なったもの	39	198
合 計		1,155	5,185

(2) 資本的収入及び支出（記載金額は消費税及び地方消費税額を含む。）

資本的収支（設備投資など、支出の効果が翌年度以降に及び、将来的な収益に対応することとなる取引などの収支）に係る予算の執行状況は、次のとおりである。

ア 資本的収入の予算執行状況

収入 (単位:千円・%)

区 分	予算現額	決算額	予算現額に対する決算額の増減	執行率
<b>資本的収入</b>	<b>1,511,610</b>	<b>673,280</b>	<b>△ 838,330</b>	<b>44.5</b>
企業債	1,276,000	0	△ 1,276,000	0
資本剰余金	230,002	665,561	435,559	289.4
固定資産売却代金	5,608	7,719	2,111	137.6

(備考) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 8,469 千円を含む。

資本的収入の主なものは、資本剰余金であり、そのうち浄水施設耐震化事業への地域の元気交付金繰出金収入 2 億 3,841 万 6 千円及び田主丸地区配水管布設工事や老朽管更新事業等に対する国庫補助金 1 億 7,321 万円が主なものとなっている。

企業債は、本年度の借入予定額 10 億 3,860 万円のうち、7 億 9,100 万円を一時借入金として処理したため計上されていない。

イ 資本的支出の予算執行状況

支出 (単位:千円・%)

区 分	予算現額	決算額	繰越額	不用額	執行率
<b>資本的支出</b>	<b>4,002,061</b>	<b>2,892,869</b>	<b>962,596</b>	<b>146,596</b>	<b>72.3</b>
建設改良費	3,108,322	2,049,253	962,596	96,473	65.9
企業債償還金	872,072	841,949	0	30,123	96.5
補助金返還金	1,667	1,667	0	0	100
予備費	20,000	0	0	20,000	0

(備考) 決算額には、仮払消費税及び地方消費税 91,894 千円を含む。

資本的支出は、建設改良費のうち工事請負費 18 億 3,352 万 3 千円や、企業債償還金 8 億 4,194 万 9 千円が主なものとなっている。

建設改良費の繰越額は、浄水施設の耐震化工事や配水本管等の改良工事を翌年度に繰越したことによるものである。

ウ 資本的収支の不足額

本年度の資本的収支における不足額は、以下のとおりとなる。(補てん状況については、「(3) 資本的収支不足額の補てん状況」を参照)

$$\begin{array}{rcl} \text{資本的収入額} & & \text{資本的支出額} & & \text{資本的収支不足額} \\ 673,280 \text{ 千円} & - & 2,892,869 \text{ 千円} & = & \Delta 2,219,589 \text{ 千円} \end{array}$$

### (3) 資本的収支不足額の補てん状況

資本的収支不足額の補てん状況は、次表のとおりである。

#### 資本的収支不足額の補てん財源額及び補てん額

(単位:千円)

区 分	補てん財源額	補てん額	残 額
消費税及び地方消費税資本的収支調整額〔当年度分〕	71,424	71,424	0
減債積立金	600,000	600,000	0
損益勘定留保資金〔過年度分〕	580,824	580,824	0
損益勘定留保資金〔当年度分〕	1,210,167	176,341	1,033,826
一時借入金(起債前借)	-	791,000	-
<b>計</b>	<b>2,462,415</b>	<b>2,219,589</b>	<b>1,033,826</b>

(備考)

- 1 消費税及び地方消費税資本的収支調整額： 仮受消費税額等と仮払消費税額等との差額を、資本的収支予算の調整額として会計上別途留保するもの。
- 2 損益勘定留保資金： 実際の支出が行われずに帳簿上計上される費用の合計額。内部留保資金にできる。
- 3 一時借入金(起債前借)： 企業債の前借分。補てん財源による補てんの不足分をこれによって措置している。

#### 損益勘定留保資金の推移

(単位:千円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
減価償却費	1,090,321	1,100,746	1,087,315	1,118,396	1,155,813
固定資産除却費	99,892	67,085	246,233	97,656	53,903
固定資産売却損	239	4,075	79	0	451
土地所管替	0	0	0	18	0
当年度分計	1,190,452	1,171,906	1,333,627	1,216,070	1,210,167
過年度分	1,485,345	1,307,443	726,628	817,148	580,824
<b>合 計</b>	<b>2,675,797</b>	<b>2,479,349</b>	<b>2,060,255</b>	<b>2,033,218</b>	<b>1,790,991</b>
資本的収支不足額の補てん額	1,368,354	1,752,721	1,243,107	1,452,393	757,165
<b>差引(残高)</b>	<b>1,307,443</b>	<b>726,628</b>	<b>817,148</b>	<b>580,824</b>	<b>1,033,826</b>

(備考)

各数値については千円単位で表示しており、平成24年度の差引(残高)は表中で算出した場合と異なる。

本年度の損益勘定留保資金の差引(残高)は、前年度と比べ大きく増加している。

これは、過年度分及び現年度分の損益勘定留保資金の合計額は減少したが、同資金によって補てんすべき資本的収支不足額の減少がそれを上回ったことによる。